

Saitama Line 報告号

第7回 Saitama Line 夢中になって「あそぶ」ことの大切さ

～発達をふまえ、保育の中で大切にしたいこと～

講師:首都大学東京 田中 浩司先生

第7回のSaitama Lineは、夢中になってあそぶことの大切さや保育で大切にしたい視点について、田中先生より様々な実践報告を交えたお話しを聞くことができました。



子どもたちが夢中になってあそぶためには、夢中になれる保育をつくるのが大切になってきます。大人の時間(都合)で子どもを動かす保育では、時間を忘れてあそぶことはできないと先生の言葉がありました。あそびには伝承されるものや子どもたちが作りだしていくものなど様々なものがあります。年長クラスのお友達がやっていたあそびを真似してやったり、絵本の物語にでてくる場所を園庭や園舎に見立てて遊んだり、子どもたちのあそびは無限大です。そして、あそび込むために安心できる環境(部屋や物)が大切になってきます。

子どもたちが主体となり日々の生活を過ごしていける保育を、子どもたちと一緒につくる必要があります。子どものあそびに入る際は、出来ない子に合わせることも必要ですが大人も本気になることにより出来る子も楽しめるようになるため、状況に応じた関わり方が求められます。子どもたちの想像や会話など、大人はついつい予測して口出ししてしまいがちですが、そこを見守る事によって子どもたちはどんどんイメージを広げていくことや考える力がついてことでしょう。「明日が楽しみ」と子どもがワクワクすることや、毎日安心して預けてくれる保護者の思いに応えていけるような保育をみなさんと目指していきたいですね。



今回のグループトークでは、年齢別に分かれて「子どもたちと楽しんだ、楽しかったあそび」をテーマに話し合いました。まだ経験の浅い先生からベテランの先生まで幅広く色々なあそびを聞くことができ、「さっそく保育で試してみたい」と思えるような貴重な時間となりました。



最後に記念撮影をしました！！

終了後のアンケートでは、「常に時間に動かされる保育をしていて反省」「自分の保育を見直す良い機会になった」「こどもたちのやりたい、楽しかった気持ちをより大切にしていきたい！」などの感想をいただきました。次回、ぜひ職場の同僚やお友達を誘ってまたの参加をお待ちしています！